

他大学の資料コレクション 形象化されたミューズの技

五十嵐嘉晴

金沢美大の学術資料としては、図書以外に当然ながら美術品類が挙げられます。元教授や美大出身者の作品はかなり収蔵されています。更に毎年、学部や大学院の卒業・修了制作の中から学校買い上げとなった作品が校内にあふれてきています。

美術資料の中心となっているのは、昭和41年に元美大教授の北出塔次郎氏が寄贈した「北出コレクション」200余点で、そのほとんどは国内外の陶磁品です。このコレクションには常設展示室があり、学内者だけでなく市民の団体鑑賞などの対象ともなっています。ことに平成5年から美大の設置者金沢市の肝煎りで多額の芸術資料購入費が配されてからは、芸術院会員の作品、ブルデルやマリノ・マリーニの彫刻、ゴヤの版画集などが収集されています。標本・教育参考品としての石膏像も学内の各所に配置されています。また学術資料としては、学校創設期から存在する琉球紅型紙102点（伊勢型紙も含む）や、昭和56年に購入した19世紀のワイマール美術館が所蔵していた建築工芸デザイン手本集1500余枚、平成7年に寄贈を受けた20世紀後半の欧米のポスター100点、イコン、世界のガラス工芸品、世界の著名なデザイナーによる椅子などがあります。

校舎の廊下や諸展示場には美術品が展示されて美術大学らしい雰囲気を作り出し、さながら学校全体が美術資料館のようでもあります。また美術品は学外各箇所での展示に貸し出されたり、学外で公開展覧会が催されることもあります。シモーネ・マルチーニの絵画の復元模写作品は、ひときわ光彩を放ち最近NIKKの日曜美術館で紹介されました。

このように美術大学は美術館に似た面があり、美術大学と美術館はきりはなせないものなのです。むしろ美術館が先で、それに附随して教育研究機関が出来たルーブル学院などの例も見られます。世界史的に振り返ってみれば、詩歌・歴史などを司る古代ギリシアのムーサ達の殿堂としてのムーセイオンは、この女神達



受胎告知(復元模写) 石原靖夫
原画:シモーネ・マルチーニ

の分野の資料館や教習所であり、やがてミュージアムとなりました。今日では、ミュージアムは博物館だけでなく美術館の意味にもなっています。またムーサの名から、モザイクなど美術関係の言葉も派生しています。すなわちミューズは言葉や音の分野から、視覚的な造形作品・資料の館に名を冠することになったのです。美術学校と学芸・美術資料館との関連は、人々の意味付けの中で歴史的必然として形成されたのです。美大の資料は、この形象化されたミューズの技の成果を研究・教育に役立てるためにあります。

ところで美大の資料はまた、大学や附属美術工芸研究所の研究事業の成果により増大しています。例えば試作研究としての、昭和51年から6年間にわたる「新しいデザインによる九谷焼上絵付の研究」による30点、「婦人服への加賀友禅の応用とデザインの研究」による18点のドレス、昭和57年から3年間かけた「加賀象眼と金沢漆器の新分野への応用とデザインの研究」による国際会議用テーブルウェア、壁面装飾・象眼組み込み漆パネル、人間国宝などに制作依頼した漆手札見本や彫金・象眼見本、「金箔の新分野への応用研究」等が挙げられます。これらは、学内だけでなく全国への依頼や協力を得て行われました。平成8年からは「世界の金箔の総合調査」を開始し、貴重な資料を収集しています。

美大の上記の研究事業や資料収集では、地場産業や金沢市の文化政策との関連や、県立美術館や市の美術関係施設との役割分担も念頭に置かれています。近年では、美大の「芸術資料整備委員会」が美術・学術資料について協議・選定、購入決定をしています。委員会の構成は、学長を長として運営評議員6名と事務局長、市の助役と都市政策部長が委員メンバーとなっています。その収集方針は、次の通りです。



インド金箔調査報告展 平成9年7月

世界の博物館

リンネ博物館・資料館・植物園

—世界の至宝収める植物資料館—

藤 則雄

- 1 本学卒業生、教員、非常勤講師等のうち、顕著な評価を得ている作家の作品
- 2 特色あるコレクション
 - A. 今日まで形成されてきた一定の方向を発展させる
 - B. 新たな視点からの形成
- 3 美術・デザイン標本類
- 4 加越能美術品

また購入理由や価格の妥当性を明確にする手順を定め、学外識者の評価を求めることも出来るようにしてあります。さらに毎年、資料収集を自己点検評価の対象としています。

ミュージアムを持つ大学は幾つ也存在しますし、東京芸術大学では大規模な大学美術館を建設していますが、残念ながら金沢美大には、上記の美術品を管理・展示する資料館も美術館も制度としてはまだ存在していません。そのため美術品や工芸技術資料については附属の美術工芸研究所が管理・運営し、書道関係、絵手本・稿本、画稿、版画などの一部は図書館が管理していますが、学内の諸専攻が収集や管理・展示・活用のイニシアティブを取っている部分もあります。学内には、これらの管理・活用を統合して資料館または美術館を求める気運があり、その実現が願われています。

(金沢美術工芸大学附属図書館長
芸術資料整備委員)

博物館(資料館)の有無、質と量、その在り方は、その国の文化水準のバロメーターであり、大学の学問的評価の指標である、とも云われている。

ノーベル賞・福祉・メルヘンの国—スウェーデンの首都ストックホルムから北約100kmに、Upland州の州都・学都・宗教都、人口数万のウプサラUppsalaがある。かつてはこの国の首都でもあった。ここに、世界屈指の古い創設、約550年の伝統を有するウプサラ大学がある。

この大学が世界に誇りうる施設には数々あるが、その中にリンネ博物館・資料館・植物園がある。

リンネ Car von Linné (1707~1778) の名は、自然科学、殊に、自然史学者にとっては忘れえぬ科学者の1人ではある。牧師の子として生まれ、世界に冠たるウプサラ大学で医学・植物学を学び、後年教授として分類学の基礎を確立し、「植物哲学」(1751)・「自然の分類系」(10版は1758)等の名著を刊行。特に後者は生物分類学の宝典であり、世界の至宝とも云われる。生物名が国によって異なることの学問への不便さに即して、学名として二名法(分類単位の属名と種名を併記する命名法)を創設したことにより“分類学の祖”と賞されている。このリンネを記念しての博物館には、資料館・植物園等も附置され、リンネの名著・採集資料も保管されている。のみならず、世界の殆どの植物が保存され、永久保存のために栽培もされ、一般にも公開されている。他に、リンネの教え子や同学の学者の資料も保存され、展示に供されている。

江戸時代末期にオランダ人を名のって長崎出島に渡来したツンベルグ Caroli Petri Thunberg は、江戸への往復で採取した日本の植物に関する名著“Flora Japonica”日本植物誌(1784)と共にその措葉も保存されている。

因みに、ツンベルグが日本の国土・国民・農業・産業・貿易、彼の専門の植物・動物等の紹介をした功績は大である。日本の本草学者は彼に植物葉体や種子を贈り、彼は医学や植物の書物を与えた。特に、桂川甫周と中川淳庵に外科手術を教え、両人は日本の薬草を



C.von Linné
・リンネ博物館(資料館)・リンネ立像・リンネ家の写真